

## 【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※小児看護学概論	1 (15)	1	第2学期	教員
目 標				
小児の成長発達と健康増進のための小児と家族への看護実践について学ぶ				
ディプロマポリシーとの関連：DP1、DP2、DP5の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	I. 小児看護学の概念 1. 小児看護とは 1) 小児看護の対象・目標・役割 2) 小児医療・看護の変遷 3) 子どもの権利と看護倫理 4) 子どもの最善の利益を目指した看護 5) 小児看護の課題	講義 演習 GW	
2	2	2. 小児看護に活用される理論 (セルフケア理論 発達理論 親子関係論 家族理論)	講義	
3	2	II. 子どもの成長発達と看護 1. 成長発達の原則と影響因子 2. 小児各期の成長発達の特徴と健康増進に向けた看護	講義 演習 GW	
4	2	3. 成長発達の評価とアセスメント	講義	
5	2	III. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響と看護 1. 健康障害や入院が小児の成長発達に及ぼす影響と看護 2. 健康障害や入院が家族に及ぼす影響 3. 各発達段階における小児の病気の理解と支援 4. 健康障害や入院に対する小児および家族の対処能力と支援	講義 演習 GW	
6	2	IV. 小児保健 1. 児童福祉 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健 6. 心理・社会的適応に関する問題 (不登校・引きこもり等)	講義	
7	2	V. 子どもの虐待と看護	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 90点、講義での提出物・課題レポート10点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論 : 医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
小児臨床総論	1 (15)	2	第1学期	院内講師
目 標				
小児に特徴的な疾患・症状について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP4、DP5、DP2の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 小児期に特徴的な症状 1) 一般状態：不機嫌・啼泣 2) 痛み 3) 呼吸・循環系の症状：呼吸困難・チアノーゼ・ショック・咳・喘鳴・無尿 等 4) 発熱：熱性痙攣 5) 消化器症状：嘔吐・下痢・便秘・腹痛 6) 水分・電解質異常：脱水・浮腫 7) 血液：出血・貧血 8) 神経・筋症状：けいれん・ふるえ 9) 発疹 2. 小児に特徴的な疾患と治療 1) 先天異常・新生児疾患：染色体異常・ダウン症候群 2) 循環器疾患：心室中隔欠損症・ファロー四徴症	講義	
2	2	3) 代謝性・内分泌疾患：I型糖尿病・低身長	講義	
3	2	4) 免疫・アレルギー性疾患：川崎病・気管支喘息・食物アレルギー	講義	
4	2	5) 呼吸器疾患：気管支炎・肺炎 6) 感染症：ウイルス感染症・細菌感染症	講義	
5	2	7) 消化器疾患：潰瘍性大腸炎・腸重積症・鎖肛・胆道閉鎖 8) 腎・泌尿器疾患：腎炎・ネフローゼ	講義	
6	2	9) 血液疾患：白血病・血友病	講義	
7	2	10) 神経疾患：てんかん・熱性痙攣・脳性麻痺	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	小児看護概論 小児臨床看護総論 : 医学書院 小児臨床看護各論 : 医学書院			
その他				

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※小児看護援助論 I	1 (30)	2	第1・2学期	教員 院外講師
目 標				
小児期に特徴的な疾患をもつ対象の看護展開と成長発達に合わせた援助方法について理解する。終末期にある小児とその親への看護の展開と援助方法について理解する				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4、DP1の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 慢性期にある子どもと家族への看護 (幼児期・学童期) 2. 慢性の経過をたどる子どもと家族の看護 1) 腎・泌尿器系に障害のある子どもと家族への看護	講義	
2	2	① 生活制限が必要な子どもと家族への看護 (活動制限・食事制限)	講義	
3	2	ストレス対処への支援	講義	
4	2	2) アレルギー疾患をもつ子どもと家族への看護 気管支喘息 (幼児期) の患児の看護過程の展開 ①小児気管支喘息の病態、症状、診断、治療	講義	
5	2	②小児気管支喘息患児の看護 ・急性発作時への対応 ・薬物療法時の看護 (吸入) ・患児への指導・教育	講義	
6	2	③気管支喘息 (幼児期) の患児の看護 ・看護計画立案	講義 GW	
7	2	④気管支喘息 (幼児期) の患児の看護・看護の実際 ロールプレイング	演習	
8	2	3) 障害のある子どもと家族の看護 ①重症心身障がい児 (者) の定義と原因 ②看護の特徴	講義	
9	2	③看護の特徴 呼吸管理、療養環境の調整、人権の尊重・プライバシーの保護	講義	
10	2	④医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護 在宅への移行に向けた支援 子どものセルフケア行動の促進	講義	
11	2	3. 小児がんの子どもと家族への看護 1) 白血病：(学童期) 看護 ①白血病の病態や主な症状、検査、治療 ②白血病の子どもの入院時の看護	講義	
12	2	③小児がんの子どもへの告知 ④小児がんの子どもを持つ家族の心理	講義演習 GW	
13	2	⑤化学療法・骨髄移植を受ける子どもと家族への看護 ⑥隔離が必要な子どもと家族への看護 ⑦家族の面会・付き添い時の指導と支援 (感染予防など)	講義演習 GW	
14	2	4. 終末期にある子どもと家族の看護 1) 子どもの死の概念 2) 終末期にある子どもと家族の特徴 3) 終末期にある子どもと家族への援助	講義演習 GW	
15	1	4) 子どもを亡くした家族の心理	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	小児看護学 (1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論：医学書院 小児看護学 (2) 小児臨床看護各論：医学書院 写真でわかる小児看護援助技術アドバンス：インターメディカ			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※小児看護援助論Ⅱ	1 (30)	2	第2学期	院外講師 教員
<b>目 標</b>				
小児期に特徴的な急性疾患および周手術期にある小児とその親への看護の展開と、成長発達に合わせた援助方法について理解する。小児期にある対象の健康障害に応じた看護技術を習得する				
ディプロマポリシーとの関連：DP5、DP2、DP4の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期にある子どもと家族の特徴 2) 急性期にある子どもと家族への援助	講義	
2	2	2. 急性期の状態にある子どもと家族への看護 1) 循環器系に障害のある子どもの看護 (川崎病：乳幼児期) ①主な症状に対する看護 (発熱、痛み、皮膚症状) ②検査時の看護	講義	
3	2	2) 呼吸器系に障害のある子どもと家族への看護 (肺炎：乳幼児期) ①主な症状に対する看護 (呼吸困難)	講義	
4	2	②症状緩和への援助 (呼吸管理)	講義	
5	2	3) 消化器系に障害のある子どもと家族への看護 (急性胃腸炎：乳幼児期) ①主な症状に対する看護 (嘔吐、下痢) ②症状緩和への援助	講義	
6	2	3. 手術を受ける子どもと家族の看護 1) 手術を受ける子どもの特徴 2) こころの準備と身体の準備	講義	
7	2	3) 子どもの手術後の看護	講義	
8	2	4. 小児看護に必要な看護技術 1) 子どもとのコミュニケーション 2) 事故防止 3) 発達に応じた説明と同意 4) プレパレーション	講義	
9	2	5) 日常生活における援助技術 6) バイタルサイン測定・身体計測	講義	
10	2	5. 小児看護に必要な検査・処置・治療に伴う看護技術 1) 検査介助：骨髄穿刺・腰椎穿刺 採血・採尿・与薬 (シロップ・座薬等) ・輸液管理	講義	
11	2	6. 小児看護に必要な看護技術の実際 1) バイタルサイン測定 2) 点滴静脈内注射の管理・固定	演習	
12	2	3) プレパレーションの実際	演習	
13	1	7. 子どもの事故と救急 1) 子どもの事故の特徴	講義	
14	2	2) 救急法 ①気道内異物 (誤嚥) の特徴 ②消化管内異物 (誤飲) の特徴と処置 ③溺水と処置 ④熱傷と処置	講義	
15	2	⑤心肺蘇生法 (乳幼児の意識レベル) ⑥気道内遺物除去法	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	小児看護学 (1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 : 医学書院 小児看護学 (2) 小児臨床看護各論 : 医学書院 写真でわかる小児看護援助技術アドバンス : インターメディカ			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			